

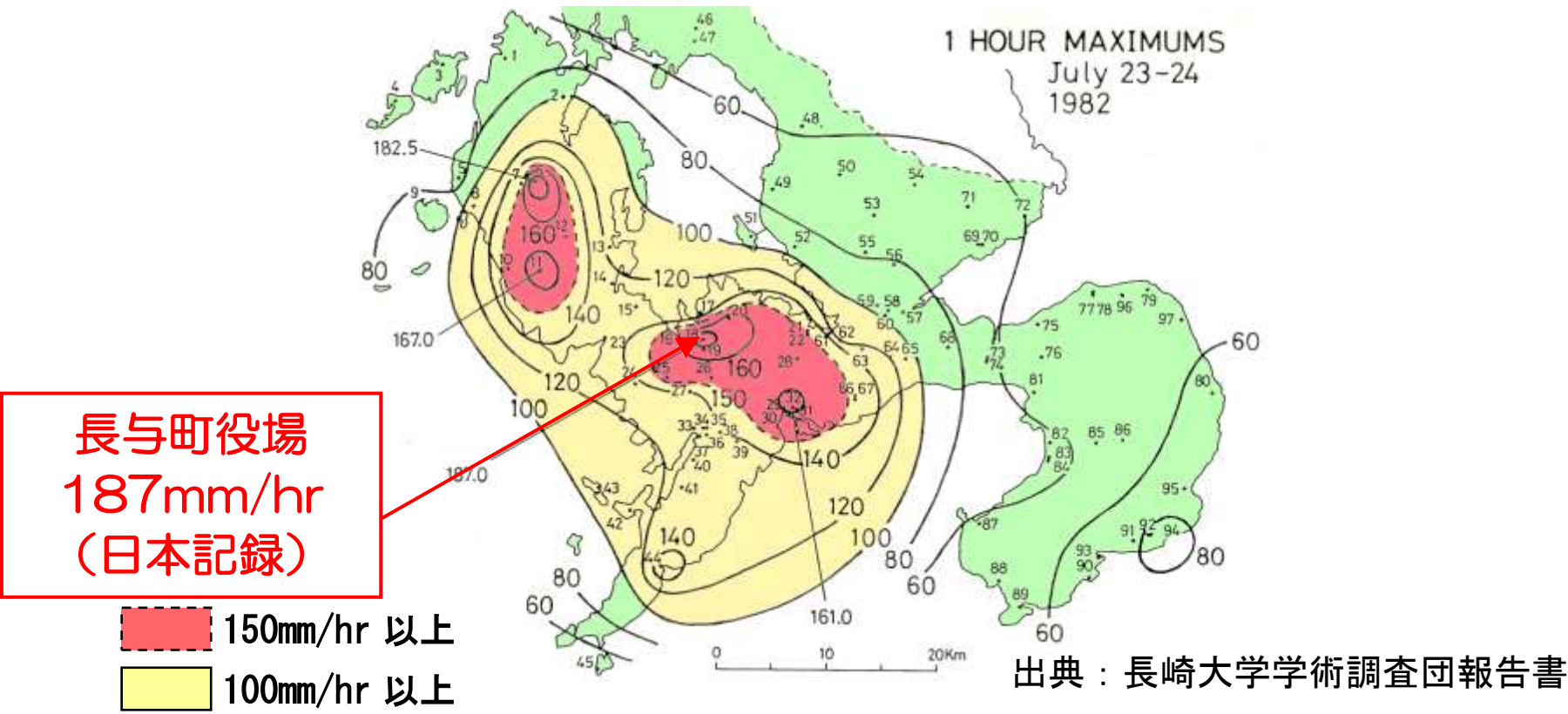
長崎大水害の降雨状況

昭和57年7月23日発生 of 長崎大水害では、長崎市北部の長与町役場で、午後7時からの1時間に187mmもの猛烈な雨を観測しました。この降水量は、長崎大水害から36年経った今でも日本記録となっています。長崎地方上空に停滞した梅雨前線に、南方海上からの暖かく湿った気流、いわゆる湿舌が加わったことで、歴史的な豪雨がもたらされました。

未曾有の豪雨の状況

最大1時間雨量を示す等雨量線図。長崎市を中心に、100mmを越える猛烈な豪雨が各地で降りました。このような豪雨が集中して降り続いたことが、長崎大水害の直接の原因といわれています。

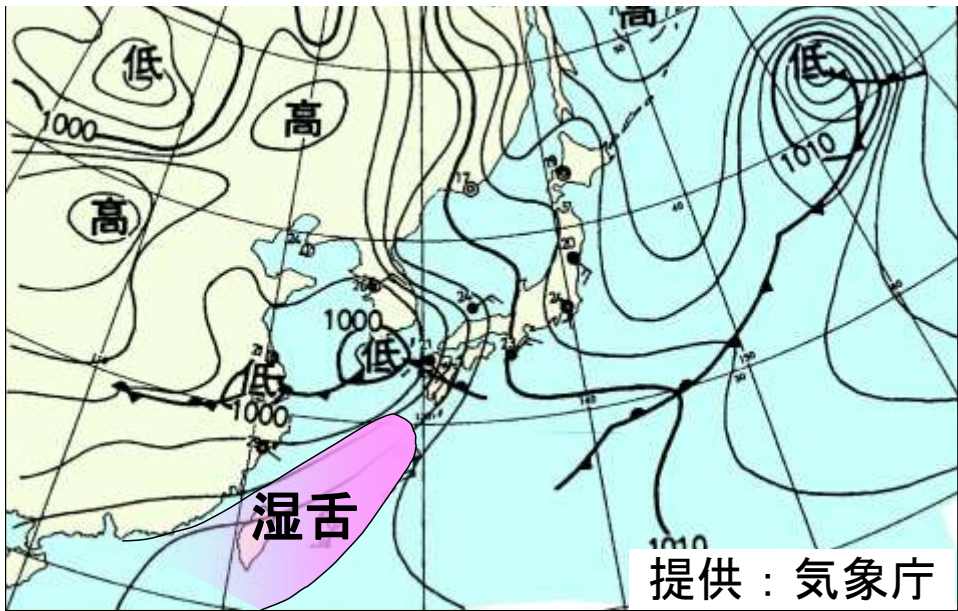
〈1982 長崎豪雨災害報告書より〉



しっぜつ 豪雨をもたらした湿舌現象

湿舌とは、梅雨前線帯などに見られる高度3km付近の舌状にのびた湿潤な領域のことです。

〈気象庁HPより〉



1982 年（昭和 57 年）7 月 23 日 21 時の地上天気図